《芽ばえ賞》

「笑顔がくれたもの」

有田市立保田小学校　４年
酒井（さけい）　心愛（ここあ）　さん

私のひいおばあちゃんは、にん知しょうという病気でした。私が生まれたときにはもう老人ホームでくらしていて、私は赤ちゃんのころから会いに行ったりしていたそうです。

私が覚えているひいおばあちゃんは、いつも私の名前がわからずお母さんに教えてもらっていたこと。いつも、

「いくつ？どこに住んでるん？」

と聞いてきたこと…。でも会いに行くといつもよろこんでくれ、やさしい笑顔でむかえてくれました。話すことはいつも同じでしたが、毎回帰るときは

「ありがとう。また来てよ。」

と、なごりおしそうにげんかんまで車いすで送ってくれました。私は小さいときからそんなひいおばあちゃんの車いすをおすのが大好きでした。ひいおばあちゃんのうれしそうな楽しそうな顔をみると、自分もうれしく楽しい気持ちになったからです。

私の住む地いきでは小さな夏祭があります。その祭に近所の老人しせつのお年よりをごしょうたいしています。祭にはカラオケ大会もあり、私は毎年友達と歌うのですが、そのお年よりの人達が、一番前の席でとても楽しそうに笑顔で手びょうしをして聞いてくれます。私はその笑顔を見ると、ひいおばあちゃんのときのようにとてもうれしくなり、また歌いたいなあっと思うのです。だれかが笑顔になったり、何かお役に立てることは自分も幸せな気持ちになり元気をもらえるのだと思いました。

私のお母さんがはたらく病院では、にん知しょうカフェというのが開かれていて、にん知しょうになっても住みなれた地いきで安心して生活ができるように相だんができたり、にん知しょうの人やその家族が地いきの人たちと交流できるように、レクリエーションをしたり、いっしょにお茶をしたりして、とてもよろこばれているそうです。

私はまだボランティア活動などに参加したことがありませんが、地いきで行われている福祉の活動を知り、自分もお役に立てそうなものがあれば参加していきたいと思います。そうして、たくさんの人を笑顔にできるようになりたいです。